

理事長のごあいさつ

## 理事長就任のご挨拶とお願い

和歌山地域経済研究機構

理事長 **Nabil El Maghrebi**

(マグレビ・ナビル)

【和歌山大学経済学部 部長】



皆さん、はじめまして。2019年4月に和歌山大学経済学部 部長に就任したマグレビ・ナビルと申します。私は故郷であるチュニジアから30年程前に日本政府の奨学生として和歌山大学大学院経済学研究科に留学いたしました。その後大阪大学で博士号を取得し、それ以来和歌山大学経済学部で研究・教育に携わってきました。

和歌山地域経済研究機構は、地域に根ざしたシンクタンクの機能を担う機関として、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所、和歌山大学経済学部の三者によって、23年前の1996年7月に創設されました。私が和歌山大学経済学部 部長に赴任して数年後からこの機構は活動をはじめ、その後現在に至ることになります。

この間の20数年で、グローバルな経済環境は大きく変化を遂げ、そのグローバルな経済環境の変化は和歌山の地域経済にも変化をもたらしました。そして今後、その変化は加速度的に進んでいくことが予想されています。そのような中で和歌山の地域経済も加速度的に変革する必要があると考えます。

国連は2015年に、SDGsに関して2030年に向けて17のアジェンダを設定しました。ほぼ時期を同じくして、プライスウォーターハウスクーパースがメガトレンド（急速な都市化、気候変動と資源不足、人口構造の変化、世界の経済力シフト、テクノロジーの進歩）を提示しました。このように世界ではすでに5年も前から世界的な環境の変化を把握し、その変化を予測することで現在の活動を変化させる試みがなされてきました。

日本でも、2015年に第5期科学技術基本計画が策定されましたし、現在は第6期科学技術基本計画が準備されています。しかし、それらの計画の影響力は限定的な事は明らかです。仮にそれらの計画に企業がコミットしていたならば、恐らく日本経済のパフォーマンスはもっと良くなっていたことでしょう。

生産性の低さ、価値創造に結びついていないイノベーションなど、私が日本に来た当時と比較しても、またグローバルスタンダードと比較しても、日本は急激にゆっくりとしか進んでいないようです。もちろん地域経済はもっとゆっくりとした歩みです。この現象の原因は何でしょうか。そしてその解決は何でしょうか。日本全体よりも課題の多い和歌山県の経済状況においては、大きな問題です。ただ、大切なことは将来を担う若者にとって和歌山県が魅力的であることが第一です。次に、和歌山県に限定されずに、国内外の投資

家にとって和歌山県が魅力的であることす。

現在の日本、および和歌山県の状況は、国立大学である和歌山大学でも当てはまっていると思います。私が学部長に就任してから、物事の進め方が如何に遅々としているかを体験しています。そのような状況の中で、私は和歌山大学大学院経済学研究科の改革を推進してきました。順調に進めば、2021年4月から新しい大学院経済学研究科が出来上がります。

新たな大学院経済学研究科では、実社会で活躍している方々にも授業科目を担当していただき、学生及び研究に刺激を与えてもらいたいと考えております。イノベーションは「新結合」と訳されることもありますが、イメージ的にはこれまでとは異なる集団による再結合「リバンドル」が適切と考えております。

企業・自治体・中間組織・大学ともに新たな時代を切り開くために、一層の新たな結合・再結合が必要であることは理解していただけたと思います。皆様をお願いすることは、是非大学や研究機構とつながり、新たな世代を担う大学院学生・学部学生の教育・研究に対して積極的にご参加いただくことです。そしてこの機会を利用していたしまして、皆様にも新たな価値が生まれることになれば、大変嬉しいことです。